展示

観賞温室第2室　企画展示

●1月4日(金)～2月3日(日)
「アザレア展～越後 西洋ツツジ大展覧会～」
●2月6日(水)～3月3日(日)
「らん展～コチョウランの鼓動～」
●3月6日(水)～4月7日(日)
「チューリップ展」

観賞温室第3室　住宅内展示

●1月4日(金)～1月20日(日)
「折紙展 春の花」
出展：日本折紙協会新潟支部はまなす
●1月22日(火)～2月11日(祝)
「植物園友の会写真展」
出展：新潟県立植物園友の会
●2月13日(水)～3月3日(日)
「緑を長く楽しもう～栽培から観賞まで～」
出展：新潟農業・バイオ専門学校
●3月6日(水)～3月24日(日)
「野の花の水彩画展」
出展：外山康雄
●3月26日(火)～4月14日(日)
「和紙ちぎり絵展」
出展：中村登子和紙ちぎり絵教室

特別展示●観賞温室第3室2階 ほか

●1月4日(金)～1月20日(日)
「ヤブコウジ展」
●1月22日(火)～3月3日(日)
「新潟県花いっぱいコンクール入賞作品展」
●3月6日(水)～3月10日(日)
「花の新品種inにいがた 北前船でつながる花文化
～のとキリシマツツジ展～」
主催：特定非営利活動法人のとキリシマツツジの郷、食と花の世界フォーラム組織委員会、県立植物園
※3月10日(日)
「のとキリシマツツジシンポジウム～園芸文化の保護と利用～」
13:30-15:30　花と緑の情報センター2階研修室
(50名先着順・当日自由参加)

教室

花と緑の教室

会場(または集合場所)：花と緑の情報センター
※要申込(開催日の1カ月前から電話受付)

●2月10日(日)10:00～11:30
「洋ランの育て方 ―写真でみる最新洋ラン栽培」
定員：15名　参加費無料
講師：小原康人(株式会社OCgarden)
●2月17日(日)10:00～11:30
「ボトルフラワーを作ろう」
定員：15名　参加費：1,000円
講師：櫛舎道子(Plink・Plonk)
●2月24日(日)10:00～11:30
「洋ランを咲かせるコツ」
定員：15名　参加費無料
講師：細川傳一郎(細川洋蘭農園)
●3月17日(日)13:30～15:30
「羊毛でつくる洋ナシとリンゴのオブジェ」
定員：10名　参加費：1,500円
講師：ナミキイズミ(murmur)

熱帯植物ガイドツアー

案内員が熱帯植物ドームの植物をわかりやすくご説明します。解説付きの見学は満足度倍増!ツアーに参加された方には記念写真プレゼントもあります。

①10:40～　②14:40～
(土・日・祝日は13:40からも実施)
当日温室発券カウンターにて受付・定員制

花と緑の相談コーナー

専門相談員がわかりやすくお答えします。来園のほか電話、FAX、電子メールでもお気軽にお問い合わせ下さい。

専用ダイヤル　0250-24-6437
受付日:水曜・日曜10:30～15:00

新潟の春を告げる花の祭典

●3月1日(金)～3月10日(日)

春一番、にいがた花三昧

● 花の新品種inにいがた(当園会場)
● チューリップ展(当園会場)
● 第36回日本ボケ展
● フラワーウェーブ新潟2013
● 春花・舞花　haru hana my flower
● にいがた世界の蘭展2013

左記期間、新潟市内の6つの花のイベントが集中開催されます。期間中、各イベントで体験教室や即売会を開催するほかイベントを巡る見学会やクイズ&スタンプラリーなど楽しい企画が盛りだくさんです！
詳細はホームページをご覧ください。
http://niigata-hanazukan.net/hanazanmai/

●観賞温室利用案内

開　館／9:30～16:30(入館締切16:00)
入館料／大人600円、シルバー(65歳以上)500円、高校生・学生300円(要学生証提示)、小中学生100円
※土日祝日は小中学生の入館料無料

●観賞温室開館カレンダー(● 休館日)

1

日	月	火	水	木	金	土
・	・	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	・	・	・

2

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	・	・

3

日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

●交通アクセス　※駐車場無料(350台収容)

高速道路／磐越自動車道新津ICから国道403号三条・加茂方面へ約15分
一般道路／(新潟方面から)国道49号茅野山ICから国道403号経由約20分
ＪＲ／信越線古津駅から徒歩約25分
バス／区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き
「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通:新津駅東口から「矢代田経由白根・潟東営業所」行き
「新津美術館入口」下車徒歩約10分

新潟県立植物園
〒956-0845　新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465　FAX.0250-24-6410
Eメール botanical@greenery-niigata.or.jp
ホームページ http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者　国際総合学園・都市緑花センターグループ

登録範囲は、事務局、鳥屋野潟スポーツ公園事務所(園地・スタジアム)、植物園です。
大豆インクで印刷しています。

NIIGATA Prefectural Botanical Garden
NEWSLETTER

新潟県立植物園

植物園だより

冨樫信平画 S55.6.20　荒川町産

ハハコグサ
Gnaphalium affine

道端や畑など普通に見られるキク科ハハコグサ属の多年草。春の七草では別名のオギョウに名を変え、全体に繊毛が多く冠毛がほおけ立つことから古くはホウコグサとも呼ばれた。

春草の印象が強く、文献にも開花期は4月から6月と記されているが、秋まで開花を続ける株もある。春先は小さくまとまった枝葉の上に黄色い花が咲いて可愛らしいが、秋には草丈が40cmに達して春先のイメージとは全く違った姿をしている。

(田中良明)

Volume 51
2013 winter

昨年の展示

コチョウラン
(Phalaenopsis)

ランの愛好団体による作品も展示

企画展示

らん展～コチョウランの鼓動～
観賞温室企画展示

平成25年
2|6(水)－3|3(日)

毎年好評をいただいている「らん展」。今回は優雅で清楚なコチョウランを中心とした、美しく華やかな展示を行います。

東京ドームの世界らん展でグランプリを受賞したコチョウランの大鉢、コチョウラン属の野生種やサルの顔に似たドラクラ(ドラキュラ)・シミア(*Dracula simila*)などの植物園ならではの珍しいランもご紹介します。また、ランならではの構造や機能の解説や、ファイバースコープをつかった微細な構造を観察できるコーナーも設置しますので、奥深いランの魅力を堪能することができます。

さらに、県内のラン愛好団体の皆様が丹精込めて栽培されたランの展示や、ランの専門業者による販売も行います。是非多くの方に「らん」の魅力に触れていただきたいと思います。

園内ウォッチング

温室●パピルス

パピルスでつくった紙

温室内の池のほとりに植えられたパピルス

茎の切り口は三角形

今回ご紹介する植物は、人類最初の紙の原料となったパピルス(*Cyperus papyrus*)です。古代エジプトでは、パピルスの茎の皮を細く裂き、縦横に並べプレスし、乾燥させて紙を作っていました。実際にパピルスペーパーを触ってみると、今の紙とは違いザラザラしていて文字も書きにくそうな印象を受けます。英語で「紙」のことを「ペーパー」といいますが、これはパピルスが語源となっています。

パピルスには、内面と外見のそれぞれに特徴があります。まず、内面では富栄養化の原因となる窒素やリンを急速大量に吸収し、水質を浄化する働きがあります。当園では温室の池の近くに植栽されていますが、通路脇に鉢植えもあるので、近くでご覧いただけます。

それともう一つの外見はというと、パピルスの茎はなんと三角形。植物の茎はみんな丸いというわけではないのです。触ったり、茎の切り口を見るとよくわかります。まるで小学１年生の時に使った三角鉛筆のようで可愛らしい。皆さんもぜひ観察してみてください。

（桐生綾香）

パーロット咲きの'フレミング・パーロット'

フリンジ咲きの'カナスタ'

八重咲きの'越爛漫'
（新潟県作出品種）

企画展示

チューリップ展

平成25年
3|6(水)－4|7(日)

新潟県の花チューリップ。

春の訪れとともに花開く姿は、おとな、こどもを問わず人気があります。最近では、八重咲き、ユリ咲きなど変わった咲き方をするものや色の変わったチューリップを目にするようになりました。今回の展示では、よく目にする一重咲きのチューリップをはじめ、さまざまな花形の品種を取りそろえ、期間中総数30品種2万本が登場。日本初の球根生産発祥の地であり、切り花生産日本一の新潟ならではの、一足早い春の装いでみなさまのご来園をお待ちしております。

園内ウォッチング

園地●カシワとキハダ

冬の園内は雪に覆われていることが多く、ソリ遊びをする親子や毎日の散歩が日課の方がいらっしゃる他はあまり人を見かけることはありません。しかし、天気の良い日に温かい恰好で園内を歩いてみると、冷たい風とまぶしい日差しが眠った体を起こしてくれ、心地よいものです。

園内に入り池を左回りに歩いていくと、水車小屋の手前に枯葉が沢山ついた樹木が見えます。これはカシワの木です。

カシワはブナ科の落葉樹ですが、春に新しい葉が出るまで枯葉をつけたままのものが多く、そのため「葉が途切れない」が転じて「代が途切れない＝縁起物」とされます。
落葉樹は秋になると葉の付け根に離層(りそう)ができ葉を落とすのですが、カシワはこの離層(りそう)の形成が不十分であることが多いため、葉が落ちにくいと考えられています。一方、葉が落ちないことによって、海岸地帯などは潮風から冬芽を守る働きがあるとも考えられています。

水車小屋を過ぎて右上の斜面には、旧市町村の木が植栽されています。その中にはキハダの木があります。

冬の樹木の楽しみ方としては冬芽の観察がありますが、キハダの冬芽はピエロのような形をしていてユニークです。キハダは樹皮(じゅひ)の内皮が黄色く、この内皮を煎じて胃腸薬にし、上越地区では熊(くま)の胆(い)のように効果があることから「ニセ熊」とも呼ばれます。キハダの冬芽は葉がある間は葉柄の中に隠されていて見えません。このような芽のことを葉柄内芽と呼びます。

キハダの冬芽

園内のカシワ

NEWS 1
オックスフォード大学附属植物園との交流

昨年10月にオックスフォード大学附属植物園及びハーコート樹木園のベン・ジョーンズ（Ben Jones）樹木園長とトム・プライス（Tom Price）庭園長が来日し、日本の固有種を中心とした植物の調査を行いました。

これまでもオックスフォード大学は日本の植物に関する研究を行ってきましたが、保有する植物には由来が解らなくなってしまったものなどもあります。今年度からスタートした多様な日本の植物の調査によって、今後の研究や教育展示、生物多様性保全に利用することが期待されています。

調査は2年間の予定で、今年は1年目の予備調査を北海道、新潟、富山、茨城、東京、京都、高知で行いました。当園も新潟県内で調査に協力し、今後も引き続き情報交換を行うことで、当園の保全活動や展示にも役立てていきたいと考えています。

針葉樹の専門家であるジョーンズ氏は北限地のコウヤマキに非常に興味を抱いていた

ナンブアザミの変異（左：切れ込みのある葉、中：花、右：切れ込みのない葉）
隣り合う個体でも葉の形が大きく違うことに大変驚いていた

NEWS 2
温室内展示場の出展者を募集します

新潟県立植物園では、花や緑の普及を目的として、花や緑に関連した作品、植物や園芸に関する文化活動の紹介、花や緑のある生活の提案、植物愛好団体の活動報告など、さまざまな植物関連団体に対して住宅内展示スペースを提供してきました。

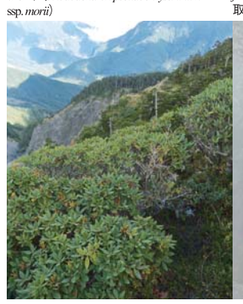
平成25年度は、19回の開催を予定しております。一団体につき2～3週間の展示期間で、会場の利用は無料です。皆様の活動の成果を広く知っていただくことのできる絶好の機会ですので、是非ご応募ください。

出展希望者の説明会を下記日程で行いますので、出展希望の代表者は下記のいずれかにご出席ください。

日時●平成25年2月6日（水）午後2時から30分程度
　　または、2月9日（土）午後2時から30分程度
場所●県立植物園 情報センター2階研修室
お問い合わせ●企画課 渡辺・林（0250-24-6465）

熱帯植物をモチーフとしたハワイアンキルトの展示

植物写真の展示


合歓山の標高3200mに生えるモリシャクナゲ（*Rhododendron pseudochrysanthum* ssp. *morii*）

宜蘭県の棲蘭山に生えるシャクナゲ、フォルモサヌム（*Rhododendron formosanum*）。大きな株は樹高6mもありました。種子も高枝切りでないと取れません。写真は案内していただいた台湾森林研究所の鐘先生と陳さん

NEWS 3
台湾 ツツジ属植物調査

昨年11月に高知県立牧野植物園の依頼で台湾のツツジ属（ツツジやシャクナゲの仲間）植物の調査と種子採集に行ってきました。

台湾は与那国島の西方約100kmにある九州程度の大きさの島で、気候は亜熱帯から熱帯に属します。西部は平野が多く、中央・東部には南北に3,000mを超える山々が連なる山脈が走っています。

このような多様な環境に16種（うち11種が台湾固有種）のツツジ属植物が分布していますが、ウライツツジ（*Rhododendron kanehirai*）は、野生では絶滅してしまいました。世界各地に分布する1,000種を超えるツツジ属の中で絶滅したのは2種だけですので、非常に残念なことです（The Red List of Rhododendrons, 2011）。

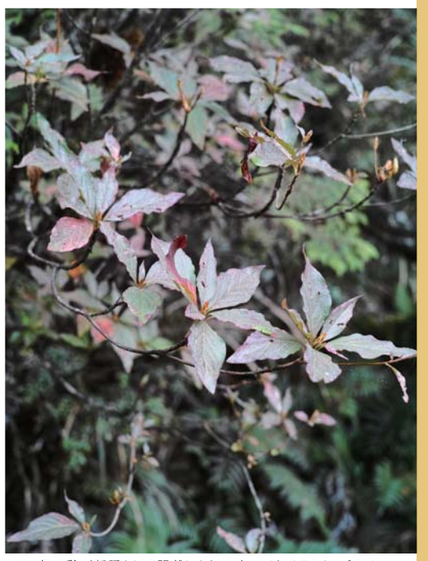
台湾のツツジ属植物は、日本の暑い夏でも栽培でき、花も美しいことから、かつては日本でも栽培されていましたが、交配などにも用いられることもなく、現在はほとんど絶えてしまいました。しかし、園芸的な利用の観点から再度注目されつつあります。日本で生産されているシャクナゲの園芸品種の台木のほとんどはアカボシシャクナゲ（*Rhododendron hyperythrum*）が使われますし、ヨーロッパで新しいアザレアをつくるためにノリアキアヌムツツジ（*R.noriakianum*）が、アメリカの四季咲きのアザレアはキンモウツツジ(*R.oldhamii*)がと台湾産のツツジ属植物の利用が広がっています。今回の調査と種子採集は、植物園としての生息域外保全だけではなく、園芸的な利用の見地からも非常に有意義だと言えると思います。

今回の調査は台湾行政院農業委員会林業試験所の全面的な協力を得て行われました。現地ではランの研究で著名な鐘詩文博士と、台湾の自生植物に精通している陳健帆研究員の案内で、北から南までほぼ台湾を一周し、11種の種子を採集することができました。自生地で大きく育っているツツジの姿を見るのは素晴らしい体験でした。特に私が1999年に新種として記載したチランシャネンセ・ミツバツツジの自生を棲蘭山で見た時には感動しました。

牧野植物園と新潟県立植物園で分担して実生を育てていますので、数年後には皆様にご覧いただけると思います。

（倉重祐二）

台湾の伝統的なイヌ「台湾犬」。山中でたまたま出会った森林研究所の楊先生のグループが連れていました（クマ避けのため）。専門の女性が面倒を見ていましたが、非常に気が荒いので、近づかないように言われました。


1999年に私が新種として記載したミツバツツジ、チランシャネンセ（*Rhododendron chilanshanense*）。イギリスのキュー植物園の友人が採集した種子を育てて、未知の種であることが分かりました。今回はじめて自生個体を見ることができました。

イワタバコ科のシシンラン。日本では絶滅危惧種。新北市の大屯山の岩場で。

タイワンホトトギス。最近は日本でも良く見かけるようになった丈夫な宿根草。大屯山系にて。

台湾の南端に近い牡丹郷で。樹木に着生していたラン（*Epigeneim nakaharae*）。

これも牡丹郷で開花していたタイワンヤマツツジ（*Rhododendron simsii*）。本来は春咲きですが、これは狂い咲き。日本でも奄美大島以南に分布します。

帽子（殻斗）が反り返り、フェルト上の毛に覆われたカシの仲間（*Cyclobalanopsis pachyloma*）。

夜にはカエルの観察にも出かけました。台湾の固有種、沢蛙（*Fejervarya kawamurai*）。

新潟の植物　北限のスダジイ

スダジイは照葉樹林を形成する主要な樹木のひとつであり、福島県および新潟県以南に分布します。日本海側の北限にあたる本県では、佐渡島と海岸平野部の数か所に自生がみられます。植物園にも大きなスダジイが植栽されていますが、スダジイは材が硬く、水平に枝をはり、冬も葉を残すために雪が落ちにくいことから、重みに耐えられず、枝が折れてしまうことがあります。多雪地帯の冬はスダジイには厳しいようですが、春には花を咲かせ、翌年の秋になると樹上に実をつけます。殻斗を持ちどんぐりの一つに数えられますが、スダジイの殻斗は実全体を包む変わった姿をしており、熟すと先が割れこげ茶の実が現れます。

（林寛子）

雪の重みで折れた枝

殻斗に包まれたスダジイの実

中国雲南省のセイシカ

ツツジ属では普通、花芽は枝先に1つつくが、セイシカは枝の腋に複数がつく

奄美大島の固有種 アマミセイシカ

みんなの趣味の園芸セレクション

セイシカは聖紫花なのか?

植物園では、園芸相談を受けつけていますが、時々面白い質問があります。今回はそんな中から、セイシカの名の由来について書こうと思います。

セイシカと言っても、ご存じの方は少ないと思います。ツツジ属の木本で、一番の特徴は、枝の先端から葉が出て（他のツツジ属は花芽がつく）、花が葉の脇芽につくことで、シャクナゲでもツツジでもないセイシカ亜属というグループに分類しています。

日本には奄美大島にアマミセイシカ、沖縄本島以西、西表島や石垣島にセイシカが分布します。

さて「セイシカ」という名についてですが、漢字では「聖紫花」と書きます。牧野富太郎先生の「日本産ノつつじ並ニしゃくなげノ類」によれば、「田代安定氏ハ明治十八年八重山列島中西表島ノ深山中ニテ始メテ本種ヲ見出サレタガ當時同氏ハ之ヲ東京ノ花戸ニ培養スル所謂せいしくわト別ノ種類デナイカト考ヘラレ因テやへやませいしくわト新稱シタガ、」とあることから、明治時代から花卉生産者が「セイシカ」と呼んでいたが分かりました。さて、これが生産者のつけた名だとしたら、セイシカは聖紫花ではなく、もともとは妙なる美しい花の意味を込めて、中国四大美女、春秋時代の「西施」の花、西施花だった可能性も大きいと思います。

ネットで調べてみると、現在、中国ではセイシカは「西施花」と表記されるようです。日本語の「聖紫花」と中国語の「西施花」、日本語の音は同じですので、両者は無関係ではないと思います。アメリカにお住まいのツツジの専門家であるShenさん（中国の方）にお聞きしたり、文献を調べた結果と私の推論をまとめました。

1）セイシカは明治に花の生産者がつけた名
2）現在は漢字で聖紫花と書くが、生産者はもともと西施花の字を当てたのではないか
3）1990年代初期の中国の文献には西施花の表記は見当たらない。ツツジ属の分類の改変や植物誌の編纂に伴い?これ以降に中国では西施花と表記されるようになった
4）時代から考えると、漢名は和名を参考にしたのでなないか

結局、結論は出ませんでしたが、セイシカの漢字表記と漢名の関係について考えてみました。

友の会通信

秋の植物観察会のこと

10月28日、秋の観察会で長岡市を訪れました。あいにくの雨模様でしたが大降りはせず、楽しく観察ができました。最初に訪れたのは越路地区のもみじ園で、紅葉には少し早くようやく色づき始めたところでしたが、地元ボランティアの皆さんから丁寧な説明をしていただきました。そのまま徒歩で巴ヶ丘公園まで移動しましたが、道路わきの植物にも目が行ってしまい、なかなか先へ進めませんでした。巴ヶ丘公園では実だけが残っている高さ2mを超えるオオウバユリと一緒に記念写真を撮るなど、遠足みたいに楽しみながらの観察となりました。

その後バスで越後丘陵公園に向かい、公園の古民家で地元の料理屋さんが用意してくれたボリュームたっぷりのお弁当を食べてから午後の観察となりました。越後丘陵公園はバラやコスモスの咲く都市公園のイメージしかなかった人も多く、里山の自然が残っている公園でリンドウの花やヌルデの実などを観察することができ、他の季節にもまた来たいとの声も多く聞くことができました。公園の植物を熟知した管理の方の説明もあり、楽しい一日を過ごすことができました。

（友の会　伊藤）

ムラサキシキブ

サラシナショウマ

観察風景

集合写真

●書籍のおすすめ

友の会会長の森田竜義先生編著の書籍のご紹介です。帰化植物に対し今までとは違った切り口からとらえた興味深い一冊です。身近な植物を例にとっていることからわかりやすく、植物の生態に興味のある方にはぜひお勧めします。

（友の会　伊藤）

「帰化植物の自然史（侵略と撹乱の生態学）」
森田竜義　編著　　2012年11月10日発行
300ページ　　北海道大学出版会
定価 3,150円（税込）

新潟県立植物園
友の会
会員募集

植物園友の会は植物に興味があり、植物園の事業・活動に賛同いただける方の会です。
平成25年度の会員を募集します。詳細は
友の会事務局（新潟県立植物園 TEL.0250-24-6465）までお問い合わせ下さい。
年会費（4月より翌年3月まで）
●個人会員 2,000円 ●ファミリー会員 2,500円 ●賛助会員（一口）10,000円
会員特典:植物園観賞温室の入館無料、植物園だよりなどの送付

新潟県立植物園　友の会ブログを開設しています。会の最新情報、会員のつぶやき、発見などをどんどん更新していきます。ぜひ、ご覧下さい。情報はE-mail：bgn.tomonokai@gmail.comまで。

ブログURL http://blogs.yahoo.co.jp/bgn_tomonokai

賛助会員〈わたし達は「新潟県立植物園 友の会」の活動を応援しています〉
●株式会社アート環境設計　●株式会社アート